



「ペイリンさんの眼鏡」デザイン 川崎和男氏が講演

国際交流基金NY日米センター主催

「デザインは欲望の刺激装置と機能との調和だ」



クリップがヒントになった付け根

国際交流基金ニューヨーク日米センター（辻本勇夫所長）は8日夕、ニューヨークのソニー・プラザで、インダストリアルデザイン、プロダクトデザインを中心としたデザインディレクターで医学博士の川崎和男大阪大学大学院教授を講師に招いたレインボーシリズ講演会を開いた。川崎氏は、元副大統領候補のサラ・ペイリン・アラズカ州知事が愛用する眼鏡「MP704」をデザインしたことで知られるだけで

会場からの質問に答える川崎教授

も注目を集めているデザイナー。当日は100人の定員を上回る聴衆者が集まった。講演の中で、同教授は注目を浴びた眼鏡のフレームとレンズのつなぎ目の構造とデザインのヒントがペーパークリップにあったことや、大阪大学と東京大学とで共同研究を進める人工心臓「KAWASAKI G5 MODEL」のヤギにおける使用実験で50日の生存記録があり、これを1000日に高めることができた段階で、自分自身が実験台となつてこの人工心臓を使つてみる、などと英語で話した。同教授は28歳の時に交通事故に遭い車椅子での生活となり45歳の時には心臓手術も受けている。

なく、トポロジー（位相幾何学）空間論をベースとしたラピッドプロトタイプング手法の研究から人工心臓などのプロダクトデザインの開発、デザイン数学を提唱したことで世界的に

「デザインは、いのち・きもち・かたち」からなる」として、デザインの力でPKO（国連平和維持活動）に代わるPKD（ピース・キーピング・デザイン）の推進やトリアージに

おける見やすいデザインなどを紹介した。講演後、同教授は「モノが本来持つてある『性能』、それが社会的な役割を果たす『効能』と調和したものが『機能』だ。デザインは『欲望の刺激装置』と『機能』との調和だ」などと話した。モノの機能を極限までつ

きつめて行くと、そこには「優秀な道具」が出現するが、そこにいかに美しさを織り込んでいくのか、数々の製品を世に送り出している同教授は、エンジニアとアーティストの間を行き来するデザイナーとしての葛藤の表情も講演の中で垣間見せていた。同講演はシカゴ、ニューヨーク、ワシントンDCで開催した。

2009年6月13日週刊NY生活
Kazuo Kawasaki Ph.D.